山行報告 : 両白山地 山毛欅尾山~笈ヶ岳

【山 域】両白山地

【ルート】山毛欅尾山(ぶなおやま)~笈ヶ岳(おいずるがたけ)

【登山方法】雪山登山

【メンバー】CL 吉川 (記録)、柘植

【行動日】4月22日~23日(前夜発)

【行程】4/21 土気 20:00-大宮 IC-首都高速-関越道-上信越道-新井 PA(仮眠)

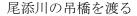
4/22(土)北陸道-金沢西 IC--里野温泉スキー場駐車場 10:00-山毛欅尾山 13:05-1271m ピーク 14:20 幕場

4/23(日)幕場 5:05-冬瓜山 6:47-笈ヶ岳 8:30/8:55-冬瓜平下降地点 10:10-1271m ピーク幕場 12:00/12:30-山毛欅尾山 13:35-スキー場駐車場 16:00-新中宮温泉-道の駅白山(仮眠) 【内容】4/22(晴れ、時々曇り)

上信越道から北陸道に入ると日本海が目に飛び込んでくる。海谷山塊に通った時の山の思い出話で盛り上がり、快適なドライブ日和である。田植え間近の富山平野から立山連峰は、雲に隠れて望めない。 金沢西 IC を降り一里野温泉スキー場を目指す。

広すぎるスキー場の駐車場のどこに駐車するか迷いながら駐車した。身支度を済ませ、100m 余りを下って尾添川の吊り橋を渡り、中宮発電所の導水管脇の階段(400 段くらいあるらしい)を標高差 200m、カタクリの花に癒されながら登る。







中宮発電所の導水管脇の階段登り

尾根に取り付いて直ぐに藪に突入するが、踏み跡が出てくると藪もおさまり、明るい灌木の床にカタクリの群生が急な斜面に導いてくれる。高めの気温と重荷ゆえ目にしみる汗に喘ぎ上を目指す。少し傾斜も緩み尾根が広がってくると、時々雪を踏むようになる。人の気配に気づくと、斜面いっぱいに広がって大騒ぎで下ってきた人達、山毛欅尾山までピストンしてきた金沢ハイキングのパーティーと出会う。我々は笈ヶ岳迄と言うと、今年は雪がつながって条件がいい時期に来られたと言われてほっとした。山毛欅尾山に近づく頃は、雪の斜面が締まっていて歩きやすかった。山頂を過ぎると、これから向かうルートがはっきり見渡せる場所に立った。その先に笈ヶ岳への稜線は続いている。これまで手の届きそうな所まで行ってもなかなか笈ヶ岳の山頂に立てないでいる。今回、三度目の正直でどうしても山頂に立ちたいという気持ちがふつふつと沸いてくる。ここから一時間あまり進んだ 1271mのピークを幕営場所とした。もう少し進みたい気持ちで間答はあったが、後にしてみれば、ここが最適な幕場だった。





山毛欅尾山の山頂 (天気はいまいち)

平坦な山頂部を本日の幕場を目指して進む

テント設営後雪山で最初にする事は水作りです。この時期の雪は水分が多いので、時間をあまり要さず に 6 リットルの水を作り、個々の好物で夕食を取る。一時テントにパラパラと落ちるものはあったが大 したことはなく、雲間に沈む真っ赤な夕陽に今日の一日ありがとう!今日、登っている時、雄谷を挟ん だ向かいに大きな稜線が大笠山へと伸ばす山が気がかりで、帰宅してから調べてみると大瓢箪山(おおふ くべ山)で、登山道はないものの薄い踏み跡はあるようだ。この領域に瓢箪山もある。冬瓜山(かもうり 山)や笈ヶ岳(山容が笈を背負った修験者に似ている)など、山名の由来を探るのも面白そうだ。

4/23 (快晴)

白い稜線の先に笈ヶ岳、冬瓜山もすっきり見渡せる。アイゼンを着けて、サクサクと気持ちよく下る が、それも束の間で藪を掻き分けるようになる。小刻みのアップダウンに蛇行する痩せ尾根、たまに雪 を拾い進む。開けた場所から朝陽を浴び、輝く白山も眺められる。







冬瓜山への登りに入る

冬瓜山への最後の登りは、岩や杉の木を避け山頂に立つ。雪があれば、ナイフリッジで難所のようだが、 半分雪が融けて岩が露出しており、楽に通過できた。こんもりしたシリタカ山以後は、素晴らしい展望 と、雪稜歩きにテンションは上がる。小笈で冬瓜平辺りでテント泊をしたであろう単独者とすれ違う。 我々もそれに続いて、憧れの笈ヶ岳山頂に立った。



冬瓜山の山頂部への急な登り



山頂部に飛び出すと素晴らしい展望



一足先に山頂に立つ吉川さん



山頂からの急な下り



笈ヶ岳の山頂が間近に迫る



白山をバックに登る



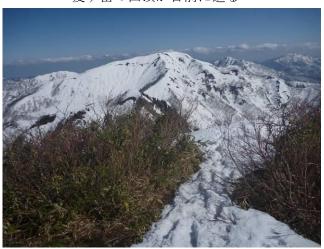
小笈ヶ岳への登り (この空の青さ!)



笈ヶ岳の山頂が目前に迫る



笈ヶ岳の山頂(後方は白山)



笈ヶ岳北方の大笠山(数年前にさらに北方の大門山 から笈ヶ岳を目指したが大笠山までで終わった)

狭い山頂ではクマにかじられ、今にも折れそうな標柱が目立った。北アルプス・乗鞍・御嶽の名立たる 山々を遠望し、間近に白山や、数年前ブナオ峠から大門山、奈良岳から大笠山まで縦走した雪稜を感慨 深く眺めた。勢い良く登って来た単独者は、我々のルートを早朝にヘッデンで登り日帰りすると言って 早々に下って行った。今、登って来た雪稜を見下ろせば、この頂を目指す人達が点々と見える。 中宮からジライ谷を日帰り登山する人がほとんどのようであった。



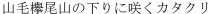
山頂から東方(遠く北アルプス~乗鞍~御岳)



山頂から西方(中央低く山毛欅尾山~冬瓜山~ 左はシリタカ山などの登ってきた尾根)

名残惜し思いで山頂を後に下山する。辿った稜線を眺めながら歩くって、とても気持ちが良い。県境尾根を分け、間もなく冬瓜平のトラバースへと進む。清水谷への山襞をトラバースするこのコースは、単調で尾根歩きより辛かった。2、3ヶ所雪崩痕があった。ブナ林の雪原歩きから、来た稜線を辿り、幕営地に戻った。この時点で今日の行動時間は7時間、思いの他早かったので、余裕で下山できそうだ。大休止後、テントを撤収して、山毛欅尾山への最後の登りへと進む。山毛欅尾山には二張のテントがあった。高度を下げるごとに雪解けで、滑る急な下降は疲れた足に追い打ちを掛けるほど負担がかかる。そんな時、身軽な若者が我々を追い抜いていった。後で分かったことだが、ジライ谷をピストンする予定を、途中で間違えて山毛欅尾ルートを下ってしまい、車を回収に行ったとか!今回は随分といろいろな人達に出会った。残雪期以外は激藪で苦労するために、今が笈ヶ岳登頂のベストシーズンのようだ。ようやく導水管の階段迄降りてきた。階段を下って終わりではない!道路まで、100m 登り上げなければならないのだ。







山毛欅の老木

三回目の計画でようやく実行できた笈ヶ岳の登頂は、天気・積雪などの条件に恵まれて最高でした。 柘植さんから「宿題の笈ヶ岳やりませんか?」の声かけが無かったら、単独でジライ谷からのピストン で終わりにしようかと思っていたところなので、山毛欅尾山からのルートを実行できたことは、とても 嬉しいです。

